

実行委員会ニュース

【発行日】2020年9月10日（第1号）
【発行】11・1集会実行委員会事務局
千葉市中央区要町2-8DC会館
doro-chiba@doro-chiba.org



職場・地域で闘いを組織し、闘いの中から学ぼう。自分が何をしたいのかを明確にしよう。そして変革のきっかけをつかむための構想を

職場・産別・地域で一歩前に出て仲間の獲得を

都内で8月23日、11・1労働者集会／改憲阻止1万人行進に向けた実行委員会が開催されました。動労千葉の田中顧問の提起（要旨）を紹介します。

1998年に動労千葉と関西生コン支部、港合同の3労組の共同ができた原点に帰る。新型コロナウイルスの中だからこそ、目指したものを本場に実現する条件が生まれている。今までは準備期間。この気持ちで11月に向かいたい。

3労組、国鉄闘争全国運動、大行進で11月1日に日比谷野音で2部構成で集会をやることを確認した。3労組では「JRの労組のない社会のモデルを作る攻撃と関生弾圧がセットで核心的な攻撃になっている。これと立ち向かう集会にしたい」と確認した。

国鉄闘争全国運動呼びかけ人会議では、10年の闘いの大きさを確認すると共に、それが大衆的運動として実現できていないことを見据える議論になった。国鉄闘争全国運動のパンフをイラストを入れてビギナー向けの書籍をつくって、非正規職と格差社会がどこから生まれたのかを明らかにしたい。

7・26国鉄集会には多くの仲間がコロナの中でも結集してくれた。お礼を申し上げたい。11月に向かう土台ができた。

8月21日の関生の国家賠償請求訴訟で反撃が始まった。全国で関生弾圧を許さない会が立ち上がっている。多くの労組や市民運動が結集している。全国的

な連絡会の結成も相談されているそうです。関生を知らなかった人も「これは大変なことだ、戦前のように労働組合が禁止されていた時代に逆戻り」という危機感を持つ人が生まれている。この条件をわれわれが生かせたら可能性になる。

解雇と改憲が焦点

コロナ情勢と11月集会。大きくは認識が一致していると思う。「もう一つの疫病、新自由主義という疫病が蔓延している」とフィナンシャルタイムズが書いた。社会の矛盾が爆発的に自覚され、社会の闇が明るみに出された。

変革のための構想

コロナ危機は労働者が歴史の前面に登場する条件を作った。労働者は30年余り軽んじられてきた。JRは「運転士や車掌は過去の遺物だ」として職名も廃止した。エッセンシャルワーク、必要不可欠、本質的な仕事への注目が集まった。労働者が社会の主人公という意識が生まれてきたのは歴史的な変化だ。

これは変革の条件。時代は必ず変わる。自分が組織した闘いの中で自分が変われば状況が変わる。自分はこの闘いがしたいということを一人ひとりが明確にする。自分はこれがしたいということを訴えて仲間と議論することが大事。変革のための構想をつくる。

労働運動の再生

岐路に立つ日本の労働運動。階級的労働運動の再生にすべてをかける時が来た。関生弾圧との闘いは敵の思惑を粉碎しようとしている。敵は武委員長の拘留中に関生をつぶすことができず、反転攻勢に入っている。

ここに労働運動再生の展望がある。関東の支援体制を作る。垣根を超え思想の違いを超えて全国的な連絡会に結び付ける。労働運動全体を押し上げるものにした。これを11月に向けて必ず実現する。

JRの民営化体制が崩壊した。JRはコロナに乗じて分割・民営化の時のような攻撃に動いている。JR東日本は4・6月の決算で単独1500億円、連結1800億円の赤字。会社は就業規則を改悪し、業務量の縮小等、会社の都合で休業を命じるという項目を盛り込むとしていた。事態は急転直下で動いている。

社長声明が出された。「収入とコストの構造変革が必要。大胆にコストを見直す。全社員は協力せよ。乗客は元には戻らない。鉄道ありきでものを考えるな」と言っている。首都圏では大規模な列車削減、常磐線は半分にする。終電の繰り上げ、乗務員の行路もすべて見直す。駅の営業時間も見直す。これは職場のあり方を一変させる。清掃会社の業務も見直し、それで業務が減れば休業。「23線区の輸送モード見直し」は1982年の全線区の35%を廃線にするということ。東労組も真っ青になって団交を始めた。「会社の都合で休業とは何か」と申し入れたら、会社は「解雇がないとは言えない」と返答した。東労組の討議資料は「雇用を守る休業制度」となっている。会社はコロナを利用すればなんでもできると踏み出した。JR北海道、四国、九州は経営破綻。これを明らかにしたら政権は吹っ飛ばす。JR九州の大株主はアメリカのハゲタカファンド。去年、今年と「不動産業に特化する。この役員を入れる」と株主総会で提案し、4割の賛成を得た。それで東、西、東海が九州の株を買った。

これでファンドは九州を見放して株を売り払った。北海道は倒産状態。北海道は7空港を民営化した。すべて破綻した。民営化は社会のすべてを破壊して暴れまわった。この時こそチャンスが来る。動労千葉が組織拡大ができたのは3度あった。分割・民営化に首をかけてストをやった時と、民営化から3年たった1047名首切りに対し前倒しストをやった時、これは違法ストと言われたが、この時も多くの仲間が結集した。そして外注化阻止闘争の時、JR本気で30人、CTSで15人が動労千葉に結集した。こういう時にチャンスがある。国鉄闘

争もこれからチャンスがある。この決意で11月に向かう。

あらゆる職場で

コロナ下の労働運動の可能性。矛盾が集中した医療現場でのストライキは、海外まで響いた。コロナ前から経営危機と経営側が騒ぎ30人の看護師が退職して医療崩壊になっていた。コロナ患者を受け入れてさらに経営が悪化しボーナスが払えなくなる。

医療はこれでは完全に崩壊する。根本は新自由主義の中で病院を経営が成り立たないところに追い込んできたこと。労組をつぶし、競争原理が働くようにした。これはコロナのすつと前から起きていた。

これを覆さなければならぬ。あらゆる職場で同じ問題がある。すべての分野でチャンスが生まれる。

改憲阻止・安倍打倒、新たな政治闘争の高揚。新自由主義は激しい国家暴力を伴って進んだ。これへの怒りはこれから始まる。世界ではすでに始まっている。

職場、産別、地域、諸運動体が一歩前に出よう。新しい仲間を連れて11月に集まろう。原則的であること大衆的であることをあいまいにしない。

渡航制限下での国際連帯闘争となります。この条件を積極的に考えたい。国際連帯にとって必要なのは日本の運動が発展すること。国際連帯のために日本の運動の組織化に集中する。